

Marp Nextで頑張る

お試しファイルです

インストールから表示まで

旧: Marp

新: [Marp Next](#)

Marpit フレームワークとMarp Core2つの核となるモジュールがある

今からやるのは[Marp CLI](#)という、Marpアプリケーションの一種で、Node.jsをインストールしてスライドをWebページで公開できるもの

参考サイト

- [M3テックブログ](#)
- [Marpit Markdown](#)

基本的にエムスリーテックブログと同じ

1. まずはnode.jsをインストールする
node.jsってなに
→ フロントエンド言語であるjavascriptをサーバーサイドにも使えるようにした言語
2. スライドを置くディレクトリを作成し、`package.json`を作成する

marpのバージョンだけ最新版に変えた(`dependencies`のところ)

```
{
  "name": "my-slide",
  "version": "1.0.0",
  "main": "index.js",
  "author": "作者名",
  "license": "UNLICENSED",
  "private": true,
  "scripts": {
    "dev": "marp --html --server .",
    "build": "marp --html --pdf --allow-local-files --title 'スライドのタイトル' slide.md -o ./slide.pdf"
  },
  "dependencies": {
    "@marp-team/marp-cli": "^0.16.2"
  }
}
```

3. `$ yarn install` を実行する
自分はnode.jsをインストールしたのに `command not found` って
言われたから `$ brew install yarn` した

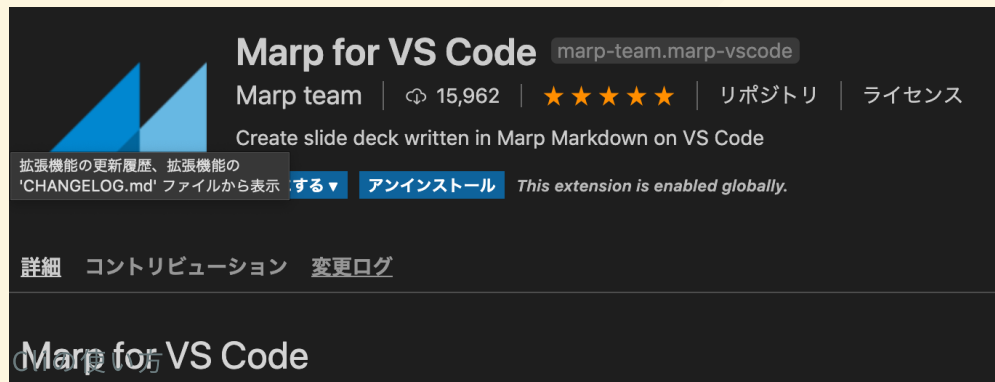
4. エディタVSコードでマークダウンファイルを記述する
[Marp for VSCode]プラグインをダウンロード
スクショで画像を貼り付ける際は

1. 拡張機能「Paste Image」をダウンロード
2. Ctrl + Shift + Command + 4 で範囲選択してスクショ取得&クリップボードに取り込み
3. Option + Command + v でmarkdownファイル中に貼り付け
→同じディレクトリに画像が勝手に保存されている

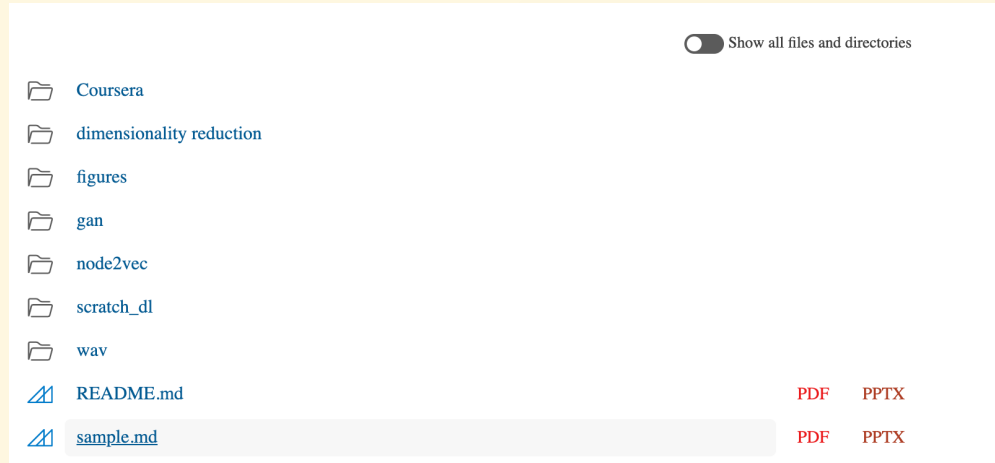
画像のサイズ指定など

今の所Markdownで真ん中寄せにするには `<div align='center'></div>` と書くしかなさそうだけどMarpでやる
のかどうやるのかわからない

<https://qiita.com/takkii/items/d09668cbf85cbdec7001>



5. コマンドで `$ yarn dev` を実行 localhost:8080でスライドがみれる



右上の「PDF」「PPTX」でスライドをダウンロードすることも可能

でもPPTXはテキスト部分等編集できない！スライドは分かれてるけど！残念！

メモ

コマンド `npx` を使ってインストールする方法もあるけど
`package.json` で記述して MarpCLI を導入する利点として

- `npx` で毎回起動すると遅い点
- `dependencies` でのバージョン指定はしておいたほうが良い点
- `package.json` の `scripts` にコマンドを記述しておいたほうがシンプルである点

システム全体にインストールされるのではなく、特定のディレクトリ配下に MarpCLI がインストールされる利点として

- プレゼンテーションごとに異なるバージョンの `marp` (や `marp` の依存ライブラリ) を利用できる
`Marp` やそれが依存する JavaScript ライブラリは開発が活発ですし、過去に作ったスライドを最新版で開いたら変なことに... という事態を回避する意味で重要です
- `package.json` と同じ階層の `node_modules` 以下に配置されるだけなので、管理者権限が不要 & システムの環境が汚れる心配もない
(Git を使う場合、`node_modules/` は `.gitignore` に指定した方が良いです。)

Directives

スライドの書式の宣言等の仕方。

1. Global directives: 全体に適用される。スライドマスターみたいなもの

```
<!-- backgroundColor: white -->
```

```
# Directives
```

```
スライドの書式の宣言等の仕方。
```

1. Global directives: 全体に適用される。スライドマスターみたいなもの

```
---
```

```
2枚目以降のスライドにも適用される
```

2. Local directives: 各ページに適用される

```
<!-- _backgroundColor: white -->
```

```
先頭に`_`をつける
```

```
# Directives
```

```
スライドの書式の宣言等の仕方。
```

```
---
```

2. Local directives: 各ページに適用される

Directives

今使ってるスライドのテーマは `theme:gaia` だけど、デフォルトだと文字が大きすぎたので自分でカスタマイズ。
以下コピペで最初にGlobal directiveとして宣言する。

```
---  
  
marp: true  
theme: gaia  
paginate: true  
footer: 2020/01/08 Marp Cliの使い方  
style: |  
  section {  
    font-family: 'Noto Sans JP';  
    color: black;  
    font-size: 20px;  
  }  
  h1 {  
    font-size: 34px;  
  }  
  h2 {  
    font-size: 30px;  
  }  
  section.lead h1{  
    font-size: 60px;  
  }  
  
---
```

- Marpでは、各スライドがHTMLでいう `<section>` 要素と名付けられている。
あるスライドの特定の属性(例えば大見出しh1)だけ, フォントサイズなど変更したかったら

```
section.クラス名 h1{  
  font-size:40px;  
}
```

のように指定する。書き方自体はcssと同じ。

使いかたもろもろ

- 絵文字はエイリアスで使えるの知らなかった 🤖👍
- TeXで数式を書く

“

$$c^2 = a^2 + b^2$$

”

$$\vec{a} + \vec{b} = \vec{c}$$

数式は正直難しいけどパワポのGUIで数式をいちいち選択するより楽なはず

使いかたもろもろ

- 絵文字はエイリアスで使えるの知らなかった 🤖👍
- TeXで数式を書く

“

$$c^2 = a^2 + b^2$$

”

$$\vec{a} + \vec{b} = \vec{c}$$

数式は正直難しいけどパワポのGUIで数式をいちいち選択するより楽なはず

アニメーションはできなさそうだけど同じ文章をコピペすることでアニメーションっぽくすることは可能そう

どう使うか

メリット

- レイアウトを全く気にしなくていい. 図とか文字を画面凝視しながら絶妙に配置しなくて済む。
- LaTeXをそのままかけるので数式をストレスなく挿入できる
- コードブロックが書ける. ハンズオンに最適？特にエンジニア同士の勉強会でかなり使われている模様

デメリット

- 細かい微調整は無理なので凝ったスライドやプレゼンテーションはできない
- MarkdownやHTML, CSSに慣れていないと手こずって逆に時間かかるかも

どんな時に使えるか

- 自分のメモをそのままみんなに資料として見せたいとき
- ゼミ資料を凝らずにパパッと作り上げたいとき
つまり勉強内容をそのままMarpでアウトプットすれば効率いいかもしれない